

七谷小学校の森林公園

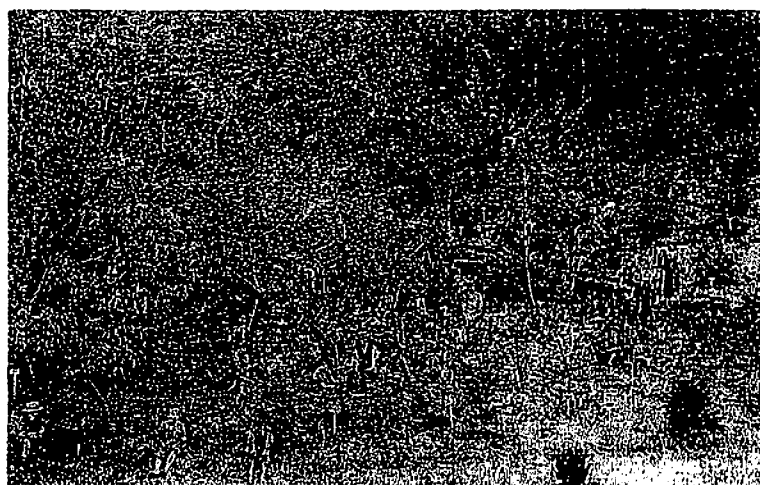
加茂市文化財調査審議委員会委員 中野保栄

100年を迎えた「つつじヶ丘」は、加茂市立七谷小学校校舎の裏山にある森林公園である。なだらかな山林の斜面の一部を切り開いた、約871坪（2,876㎡）の面積をもった公園です。

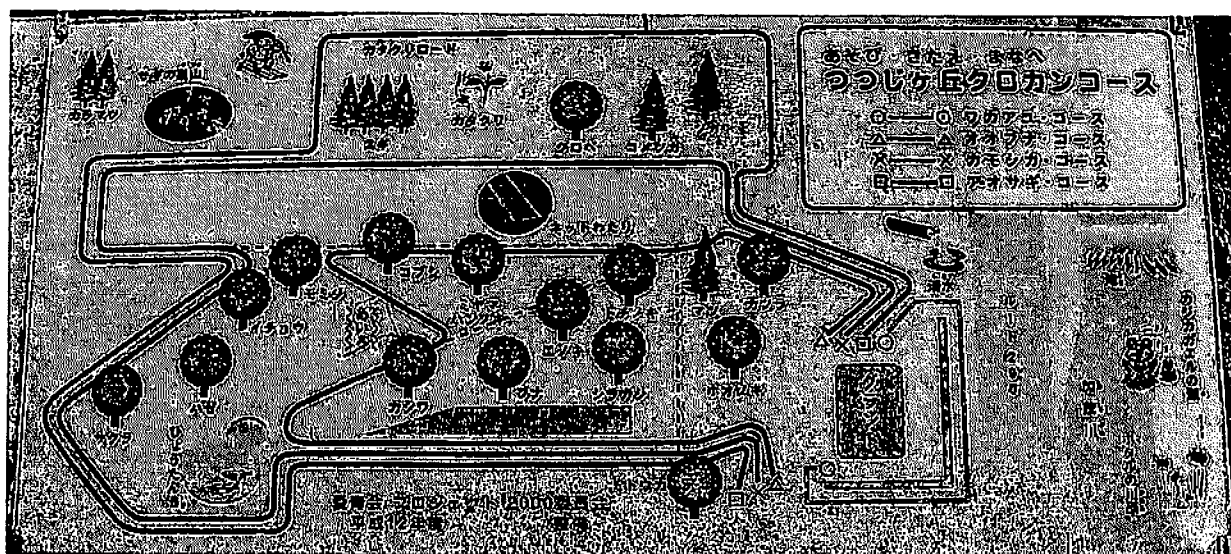
この公園ができたのは明治43年（1910年）のことである。明治政府は明治43年2月25日に町村制施行20周年を記念して、全国から模範的な町村31を選定、内務大臣の辞令書に添えて金員を

授与した。これがいわゆる模範村であり、七谷村はその一つに選ばれたのでした。村では「選奨記念事業」を計画し、そのうちの一つを森林公園の造成に当てられたのでした。この公園の選定や配置などの基本設計は、当時加茂農林学校の林業主任の後藤教諭に委託されました。教諭は「明治神宮の森」の設計に当たった東京帝国大学教授本多静六林学博士の指導を受けたとされています。博士は植物園の樹種50種を寄附している。この頃の公園の名は「七谷尋常高等小学校附属森林植物園」と呼ばれていた。苗木から樹木に育つ間、村の人達の手助けを借りたり、農林学校の生徒による奉仕活動を加え乍ら、大切に手入れを続けてこられたとのことです。

現在の「つつじヶ丘」は、元の植物園の前面に子どもの遊び場と、植物園の左側斜面に、ス



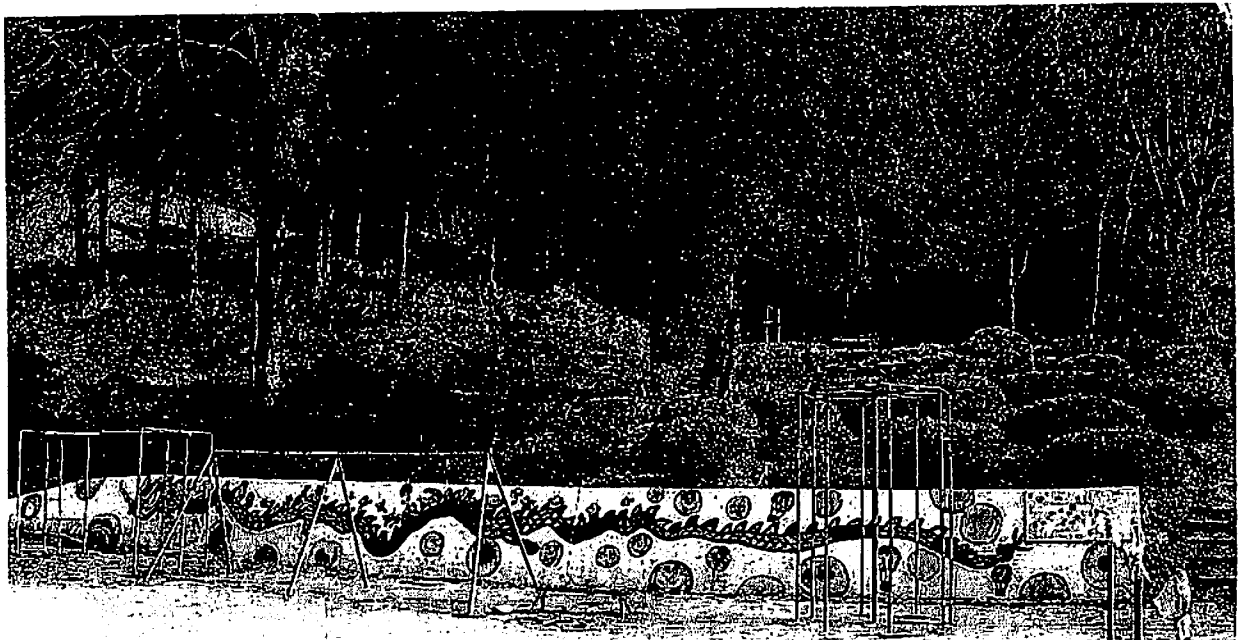
七谷尋常高等小学校附属森林植物園



クロスカントリーコース

スキー場が加わってそう呼ばれています。遊び場には鉄棒、ブランコ、すべり台、ジャングルジム等の遊具があって、細長い広場になっています。広場の上段は植物園になっていて、2m位の段差のあるコンクリートで固めた土止めがあります。その土止めは白色のカラータタンに包まれ、龍の絵模様が描かれていました。子ども達の創作作品なのか、生き生きと表現されていました。また植物園の左側斜面には、昭和36年にできたというスキー場がありました。公園の隅に位置しているが、胴回り250cm位、樹高約30mの桜の老木が2、3本、狭い空間をひとり占めをするように枝を広げて立っている。他にもモミジ、ムラサキシキブ等の灌木が立ち並んでいる。元の植物園を3段階に分けると、下段はツツジの群生地、中段は桜の木にも匹敵するブナ、トチノキなどの喬木が枝を広げて立っている。まだまだカシワ、エノキ、ミヤマハンノキ、シラカシ等が続いている。上段はクロベ、コメツガが元気である。以上13種類の樹木を並べてみたが、冬には2～3mの豪雪に耐え抜いて来た森林公園、100年を経たとは思われない程整然としたものだった。

グラウンドから案内板の下を通して、クロスカントリーコースにつながる通路は、春になると満開のツツジの花を眺め、春から夏にかけては、新緑地帯の浄化された空気を胸いっぱい吸い込み、秋になるとモミジの紅葉を楽しんで散策できる道程なのです。この公園は生徒達が自然と交わり遊び、自然とふれ合って身体を鍛え、自然を観察して学ぶことのできる場所なのです。クロスカントリーとは、山野を横断して走る競技であるといわれていますが、昭和46年～48年、当時校長先生をしておられた丸山先生のお話では、施設も整備され、子ども達が利用する様子を見て、誰いうとなく自然と伝わっていったのが「つつじヶ丘」という名前だったと思われると言っておられました。模範村として村政に携わった当時の小野村長の偉業が偲ばれます。



つつじヶ丘公園